


平成29年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.1)


団体名	伊川野菜青年部
参加人数	10名
実施日・期間	平成29年11月14日(火) から 11月15日(水)
実施内容 (視察先・内容など)	<p>《主な視察先》 広島方面</p> <p>① クミアイ化学：取扱商品の紹介と説明。・工場内での作業見学（工場内撮影禁止のため写真なし）</p> <p>② 田邊農園：販売先や栽培方法について。・作業効率についての説明</p> <p>《目的》</p> <p>伊川地区でも生産が盛んな葉物野菜を中心に生産している広島県の田邊農園を視察しを行う。業務効率化の方法やパートの労務管理、経営ビジョンの作り方などを生産現場の視察を行いながら研修を行う。</p>
写真	
実施を受けて 今後に活か せそうな点 実施してい きたいこと	<p>《所感》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段使用している農薬がどのような行程で作られているのかを知る事が出来た。</li> <li>・ クミアイ化学の商品がどんなものがあるか知る事が出来た。</li> <li>・ 軟弱野菜の農薬の使用回数が非常に少なく驚いた。</li> <li>・ 運搬車を改造し、袋詰め作業の効率化が参考になった。</li> </ul> <p>《今後に活かしていきたいこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 客土をしっかりと入れていたので土の状態が良かった。</li> <li>・ 客土の導入などで、病害虫の発生しにくい土作りを行う。</li> <li>・ 販路の拡大と安定供給に向けた栽培管理</li> <li>・ パート管理のための、出荷予測データの蓄積と実証。</li> <li>・ 調整作業ラインの作成による作業効率の向上</li> </ul>

平成29年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.2)


団体名	駒ヶ林浦漁業会水産研究会
参加人数	14名
実施日	平成30年2月6日(水)
実施内容 (視察先・内容 など)	<p>《主な視察先》 京都方面</p> <p>① 京都中央卸売市場 内容：市場での出荷形態・出荷後様子などの見学・意見交換</p> <p>《目的》 「歴史ある駒ヶ林の漁業を伝えていきたい。駒ヶ林に魚市場があることが 知られていない。魚価が上がらない。漁業を知ってもらいたい。魚食の普及 と付加価値の向上」などの課題を、若手が解決したいと考えている。そ のため、売り先の状況を実際に見学し、自分たちの魚がどのように流通し ているか、出荷形態、出荷後の魚の様子を見て、魚価の向上や品質維持の参 考にしたい。またどんな魚が好まれているかなども知りたい。</p>
写真	

<p>実施を受けて今後 に活かせるような点 実施していきたい こと</p>	<p><b>《所感》</b> 今回参加した生産者は活魚、鮮魚等何らかの形で、京都中央卸売市場に出荷したことが有る者が多く、ほとんどの生産者は、トラック便や活魚で京都まで自分の車で走って、荷を置いてすぐ帰るといったパターンである。今回自分たちが、出荷している市場全体を見学できたのと、卸業者さんや、市場開設者の京都市の職員さんと直接話をさせてもらい意見交換ができたことが良かった。自分たちは、少しでも、価格が高い所に出荷するためにはどうしたらいいかという事が主眼で京都に来たが、市場の方からしたら、価格の高い所高い所と市場への出荷を変えたり、卸さんを変えたりするが、実際は、多くても少なくてもコロコロ変えずに、出荷してもらった方が、消費者からの評判も良くなり、次も神戸の魚というように信用が出ますよ。この繰り返しが大切ではないでしょうかと話しをされた。このことは、参加した者もその通りだという意見が多かった。 また、忙しい中なのに、十数人の生産者の見学に、京都中央卸売市場の職員さん、卸の大京魚類、大水京都の皆さんが質問でないような質問に対しても詳細に回答していただいたことに対して、参加者は、見学にきて良かった。市場が広くて、きれいに整理整頓されていて、ゴミもなかった。次も水産研究会として何かやりたいという気持ちになっています。(略)</p> <p><b>《今後活かしていきたいこと》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分に合う卸さんを決めて、魚を送り、信用を得るようにしたい。</li> <li>・ ハモの取り扱いが全戸でトップ、特に近海では活魚で取り扱われており、今後も夏場のハモは、自家用トラックで運びたい。</li> <li>・ 自家用トラックでの出荷を共同で出荷できないか検討し、できれば共同出荷したい。</li> <li>・ ハモが、水槽に入れて市場に入ったときには約10パーセントぐらい目切れしているらしいので、これからはその分多めに入れたい。</li> <li>・ 京都には、大きいハモは価格がしないから、出荷しても値がしない。養殖物が価格がいいと噂になっていたが、天然ものなら価格する。また、天然物は、仲卸しから</li> <li>・ 料理屋さんへ行くので、うまいと評判になれば価格が跳ね上がるという事なので、コンスタントに出荷していきたい。</li> <li>・ ハモを今まで大きさまぜこぜで売っていたが、卸さんから、2kgぐらいにして出荷するなり3キログラムで3本なりを出荷した方が評価がするということなので、そうしてみたい神戸の方がいいとの事なので曹試合。</li> <li>・ グチは練り物に使うので京都よりも神戸の方がいいと言われたので、そうしたい。</li> <li>・ ホウボウは神戸では二束三文なので、京都に送りたいが、いかがかと聞いたが、九州から入荷するホウボウが600gぐらいあり大きいので、神戸が500gまでなら価格負けするので、いまままで道理地元に出す。」</li> <li>・ ハリイカは透明感のあるものであれば横子に出荷した方がいいとの事なのでそうしたい。</li> <li>・ 多く取れてしまって、死んだ分は活け物で出すより、一般で売った方がいい。塔尾ことなので、そうしたい。</li> <li>・ ナマコの、青は京都では売れません。赤がいい。今日とは1キロずつ袋に詰めてセリにかけられている。子上の方は、2キロずつ袋に入れてセリにかけているので、京都に出火するときは、1キロずつにしたい。</li> <li>・ アワビは売れるので突っ込み(畔合わせ)で出荷してもいいという事なのでそうしたい。カキのついてない方がよい。金曜日土曜日のセリにかけた方が価格は言いという事なので、いまがシーズンなのでそうしたい。</li> <li>・ シラサエビとかアジアカエビは、酸素を入れてブクブクをして出荷してみたい。</li> <li>・ 駒ヶ林の市場整理整頓親愛といけない。</li> <li>・ 市場で、特にセリ場でタバコを吸っている人は誰もいなかった。駒ヶ林の市場も禁煙にすべきである。</li> <li>・ 食品を扱っているという認識を、市場関係者全員が持たないといけない。そうしてほしい。</li> </ul>
---	--


平成29年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.3)

団体名	西垂水水産研究会
参加人数	14名
実施日・期間	平成30年2月13日(火)
実施内容 (視察先・内容など)	<p>《主な視察先》 福岡方面</p> <p>① 福岡県水産海洋技術センター 豊前海研究所 視察・研修内容：あさり養殖に関する手順の説明</p> <p>《目的》</p> <p>近年、漁業資源の急激な減少により漁業に対する意欲の低迷が深刻化しつつある中、獲る漁業から作り育てる漁業を会員から取り組もうと声がかかっています。会員からあり、比較的少ないが軽減であるアサリ貝の生産を試みようとなり先進地を模索しました。私たちの地先にある波浪の影響が少なく管理がしやすい垂水漁港水産種苗生産施設海域を神戸市と調整して利用させていただき、先進地である福岡県水産海洋技術センター豊前海研究所が開発されたアサリ稚貝育成装置「かぐや」を用いた技術を習得しアサリ貝を生産する事で将来への漁業へ繋げる。</p>
写真	
実施を受けて 今後を活かせ そうな点 実施してい きたいこと	<p>《所感》</p> <p>作業手順の詳細が明らかになり、稚貝のサイズにより使う筒の大きさを 変えることでプランクトン（エサ）の量を調整しつつ、成長に欠かせない 酸素量の十分な確保が出来、成長させやすい環境づくりをしていること が知識となりました。</p> <p>《今後を活かしていきたいこと》</p> <p>養殖時、毎日筒、カゴが日に当たる時間を確保する事により成長速度が よりはやく出荷しやすい大きさになりやすいので水に浸けるか否かを毎 日確認することが大切であるので注意して行っていきたい。</p>

平成29年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.4)

団体名	岩岡青年部
参加人数	7名
実施日・期間	平成30年2月21日～22日
実施内容 (視察先・内容など)	<p>《主な視察先》 静岡方面</p> <p>① サカタのタネ視察研修（掛川試験場）</p> <p>視察・研修内容：野菜品目ごとに品種特性についての説明等</p> <p>《目的》</p> <p>各栽培品目において秀品率の向上、出荷率の向上 新たな品目・品種への挑戦を目指す</p>
写真	
実施を受けて 今後に活か せそうな点 実施してい きたいこと	<p>《所感》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜品目ごとに品種特性から他社品種との違いまで細かく圃場を見ながら説明いただき大変参考になった。</li> <li>また新品種の作物の状態を実際の圃場で確認できたことはよかった。</li> <li>生産者では同条件で複数品種を比較するのが難しいので試験圃場でみることができ参考になった。</li> </ul> <p>《今後に活かしていきたいこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品種の変更をして出荷量の拡大を図れるようにしてみる</li> </ul>

平成29年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.5)

団体名	ペリオディカ クラブ
参加人数	約20名
実施日	平成30年3月11日(日)
実施内容 (視察先・内容 など)	<p>《主な研修内容》 ※神戸市内にて講義実施 【講師】川田研究所(土壌分析・ミネラル専門工學博士 川田 肇 先生) 【テーマ】土壌中のC/N比の把握・土壌分析などを踏まえて栽培技術向上を狙う</p> <p>《目的》 高品質・多収の有機栽培技術を学ぶことで、独りもしくは夫婦農家で売上1000万を目指す。作物栽培には、投入資材のC/N比が重要だと考えられているが、では投入後の土壌がどうなったとき高品質多収の収穫が実現するのかを追求する。</p>
写真	
実施を受けて今後 に活かそうな点 実施して いきたい こと	<p>《所感》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作物の生育を決める要素として、化学性、生物性、物理性三要素があるが、一番重要なのは物理性である。</li> <li>・ この物理性を改善するのに、ごく微細な鉱石を含んだ水を灌水することで解決できる。</li> <li>・ C/N比は、10が良いがその絶対量は、作物の吸収する窒素量で換算できる。</li> <li>・ 化学的要素であるミネラルを鉱石であると解釈し、その施用で作物や土壌が活性化されると言う考えは斬新な切り口で是非試してみたい農法だと思う。</li> </ul> <p>《今後活かしていきたいこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミネラル(鉱石水)を太陽熱養生処理前に施肥する。</li> <li>・ 土がどう変化するか、圃場を掘ることで追跡調査を行う。</li> <li>・ ソルゴーの窒素含有量が分かったので、それに見合った窒素肥料を投入し、C/N比10とする</li> <li>・ そのことで土壌中炭素の量を増やし、地力増強による収益率向上を目指そうと思う。</li> </ul>